
夏の昼下がり

ペロコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の昼下がり

【Nコード】

N0596C

【作者名】

ペロコ

【あらすじ】

いつものように、事件を解決に導いて帰宅した新一に悲劇が・・・？！ 季節外れの、夏休みのお話。そして、新一が元に戻って半年経過。蘭ちゃんと恋人になってます。あと、笑いを追及しています。事件性は0！ それでは、楽しんでいただけたら嬉しいです（*ハ

-ハ*）

「——よって、あなた以外にはありえないんですよ、この犯行はね……」

いつものように、華麗なる推理ショーを披露したオレ、工藤新一。元の体を取り戻して、半年が経った。戻ってきてすぐ、蘭のところへ行き、告白と謝罪。

怒りつつ、涙を流しつつ、微笑みつつ、蘭は

「お帰りなさい。……私も好きだよ、新一……」と真っ赤になりながら言ってくれた。

今でもその時を思い出すと顔の筋肉が緩む。

暑い夏の昼下がり。学校は夏休み。

推理ショーを終えたオレに、いつものなじみの警部が近寄ってくる。

「いやぁ……今回も悪かったね、工藤君。助かったよ！送らせるから待っててくれ」と。
が、

「いえ、お役に立てて何よりです。それと、送るのはいいですよ」と丁寧に辞退させていただく。

探偵を始めたばかりの頃のオレは、このお人好しの警部たちに甘えてばかりだった。しかし、コナンという期間を経て、警部たちはまだ仕事如山ほどあるのを知り、そしてオレは探偵であって、どっかの偉い人でもなんでもないということも知った。

警部たちの手助けはするが（事件にも興味あるし）、それ以上でも

それ以下でもない。

そんなことを思いつつ、帰路につく。

今日は蘭がうちに来ている。「宿題を一緒にするため」・・・というのは名目上の話で、本当はオレが蘭と一緒にいたいだけ。クーラーの効いた部屋でのんびりと過ごす予定だ。

暑い中を、汗をかきながら工藤邸、オレの自宅へと向かう。そして、ガチャとドアを開け・・・て？

え？

見覚えの無い2足の靴。1つは男物で、もう1つは女物と見てすぐに分かった。

そして、その持ち主は・・・

リビングの方から聞こえてくる、この大声の関西弁・・・顔から血の気が引くのが分かる。

すると、ドアの音に気づいたのか、リビングから人が3人出てきた。

「あ、お帰り、新一！実は今ね・・・」

「よお、工藤！元気にしとったか？」

「おじゃましてますう」

1人はオレの彼女、蘭。そして、残る2人は・・・

「服部・・・なんでオメエがここにいるんだ？」と脱力しながら言う、

「そんなん、遊びに来たからに決まっとるやんか！どっか、昼飯でも食いに行かへんか？」

「・・・パス」

「パス？パスタか？」

「あ、そういえば、前に行ったパスタのお店おいしかったよね！新一がいなかった時に服部くんたちが来て一緒に行った所！！」

「ええなあ！また行きたい！！」

「あ、いや・・・」

と口をはさむ間もなく、とんとん拍子に決まっていくな物事にあきれ
るオレ。

そんなオレに追い討ち。

「新一・・・ダメ・・・かなあ？」

だあああつ！！！！この目に弱いんだよ！

「・・・わあつたよ」って言うしかねえじゃねえか！！

で、4人でパスタ屋さんに向かう。（一応、初めてとなっている）

オレを含め、みんなおいしく昼食を済ませた。

そして、本題へ。

「・・・で？何しに来たんだ？和葉ちゃんと・・・この色黒探偵」

「いつ・・・色黒？！」

「前にもこんなパターンあったような・・・」

「何しにつて・・・だから、遊びに来たんやって言うたやんか！夏
休みやし、和葉が『蘭ちゃんに会いたい！』って言うもんやから・・・」

「」

「なっ！アタシー人のせいにしんといてよ！平次かて『工藤に会え
る』言うて、むっちゃ楽しみにしてたやんか！」

「・・・」

ハア。別に、来るのはこの際かまわねえ。ただ！！

「何で前もって連絡とかくれねえんだよ・・・」

「思い立ったが吉日言うやろ？」

「服部くん・・・」

「で？何をするんだ？」

「買いもん行きたいねん！東京でのお買い物♪」

「あ、じゃあ、今洋服のセールやってるデパートがあるから、そこ行かない？」

「あ、ええなあ！そんじゃ、さっそく行こー！」

「うん！！」

「お、おい・・・」

と、蘭と和葉ちゃんは早々と立ち上がる。

残された、オレ達はどういうと・・・。

「ハア・・・荷物もち決定やな」「だな」

と、今からこの暑い中を大量の荷物を持たされるであろうという悲しい推理を披露し、互いに一致していた・・・。

そんなやり取りから、約4時間。もう、夜になるのでは？という頃、ようやく気が済んだのか、蘭と和葉ちゃんは

「いっぱい買っちゃったね！」

「そうやな！むっちゃ楽しかった♪」とご機嫌。

が、一方、オレと服部は、予想が的中し暑い中を荷物を持たされ、もう体力は限界だった。

と、和葉ちゃんが「あ、新幹線の時間あるから、そろそろ帰るわ！」
と言いだした。

そして服部も「そやな。もう和葉も気が済んだやろ？」と言う。

「え？もう帰っちゃうの？泊まってけばいいのに・・・」

「うん……。明日、登校日やねん。ゴメンなあ？」

「そつか……。じゃあ、仕方ないね。また今度ね！」

と、蘭と和葉ちゃんが会話をしている横で、オレと服部は

「……。お疲れサンやな、工藤……」「オメエこそ……」

と、大量の荷物を横目で見つつ、顔を引きつらせていた。

そんなこんなで大阪組が帰った後の帰り道。

「新一……。大丈夫？今日はゴメンね？事件のすぐ後だったのに……」

と、オレを労わってくれる蘭。やっぱり優しいなあ……。と思いつつ

「別にいいよ。蘭は楽しかったんだろ？」と蘭を見ると、

「うん」

と笑顔で言ってたし、よしとしよう！！

余談だが、服部は帰り道に、和葉ちゃんに

「こんなに買って……。そない無理してオシャレなんかせんでも
エエんとちゃうん？」

と発言して、和葉ちゃんの怒りを買ったらしい。

その服部が「何が悪かったんやろ？」と聞いてくるのは、

明日の夜のこと……

（後書き）

みなさま、こんにちは。ペロコです。

またしても突発小説！！

今回は、関西弁が書きたくなって、書きました（笑）考える事1時間。

テスト期間中にも関わらず、どんどん構想が固まってしまったので、書かずにはいられなくなりこのような形に・・・。

何といっても、西の2人が書きたかったんですよ♪そして、新一の災難・・・（笑）夏休みの話ということで、季節はずれではありますが、楽しんでいただけたでしょうか？新一視点も初の試み！まあ、快斗と似た雰囲気なのでとても書きやすかったんですけどね。

それでは、評価やコメントいただけたら嬉しいです♪

あと、「キッドside」は、近々更新の予定ですので、そちらもよろしく願います！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0596c/>

夏の昼下がり

2010年10月9日10時01分発行